

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771500406		
法人名	ハート・ケア・シオザキ有限会社		
事業所名	グループホーム袖村		
所在地	丸亀市飯山町西坂元928-1		
自己評価作成日	令和5年1月13日	評価結果市町受理日	令和5年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来22年間、白雲が流れるように利用者、職員共に自然体で過ごしてきました。毎日の散歩、リハビリ体操などを行い、320坪での畑には季節の野菜が実り、毎日の食事に供されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

開設以来、職員の異動はなく人員は安定している。地域の住民にも親しまれ、家族ぐるみで自然な交流が来ている。経営の骨子は『家族として暮らし、苦楽を共にする』ことを掲げている。袖村と呼ばれる地に木造平屋1ユニットの事業所を作り、利用者も職員も家族も共に時間を過ごせる生活空間を理想としている。食事は、自ら野菜を栽培、自家製味噌も作るなど出来るだけ手作りに拘り提供されている。健康に配慮した食事に代表されるように、利用者のお世話にも創意工夫があり、一人ひとりの利用者にとってベストな介護を探求されている。庭では犬や猫・金魚を飼育し、木々や花に囲まれたアットホームな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と利用者は白雲が流れるごとく過ぎる時間を共有しており、この理念を実行しながら22年間を過ごしました	理念は『家族として暮らし苦楽を共にする』を始業以来掲げている。利用者も職員も同じ屋根の下で一緒に暮らし、同じものを食べ、家族同様に暮らすことを経営の理想としている。職員も理念を共有している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	野菜の提供やあいさつで団地の住民の皆さんや近所の農家の皆さんとは、日常的にお付き合いをしてもらい、子供を通じての交流もさせてもらっています	職員は気さくで話しやすいので、日頃の付き合いを通じて、近所の住民や農家と自然な交流が継続している。職員の子供と近所の子供同士、長年の交流がある	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の相談に乗ることは多いが、進んでは取り組んでいません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	G・H袖村の取り組み方や考え方も会議のメンバーに理解を得ています。新聞の切り抜きなどから議論、話し合いしたりしています	新型コロナ禍により、行政には文書報告になっているが、新聞の切り抜きなどを参考にした社会的な話題を中心に事業所に照らし合わせ話し合いをしている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	よく市の担当課に出向き、時に意見を頂いた意見をいただいたりしています	市の周知会や会議に参加して情報を収集したり、事業所のサービスや取り組みについて、直接担当者に意見を聴くなどの関係が築かれている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切していません。玄関などは日中施錠していません	転落等の予防をするため、マットを敷くことはある。見守りができる場所は自由に出入りが出来るようにしている。身体拘束に該当するものはない	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	過去にも現在も虐待は一切ありません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その都度、勉強しています。現在、2名成年後見制度を利用されています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時はもちろん、途中においても重要な点は、再三説明しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できる限り家族には面会をお願いしており、その都度様子を報告したり、要望などを聞いたりしています	家族には些細なことでも連絡を欠かさないよう心掛けられている。小さな相談や報告が信頼関係を作り、様々な意見を言える関係性を築かれている。小規模の事業所ならではのスピード感で運営に反映させられている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	食事の時など全員で話し合いをし、トップダウンよりボトムアップの意見をよく取り上げています	管理者も職員も入所者もオープンな雰囲気です。何でも話し合っている。皆同じ場所や時間を共有している	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員の離職はなく、パート職員も長年続けてきていただいています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネージャー、介護福祉士の資格取得に協力し講習などにも参加してもらっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの職員もよく来たり、連絡会にも参加しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期における信頼関係は、特に大切なことなどで、4.5日間ほど本人の特性をつかむよう努力しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期における信頼関係は利用者と同様に大切なことであるので、時間をかけて家族の思いを聴くことにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多くの場合、ケアマネジャーからの情報も入ってくるので、その時点でどの支援が必要か判断しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信念にあるように、職員と利用者は共に時間を共有しながら過ごしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の都度、利用者の良い所、又は問題点を報告し、情報を共有し思いを同じくしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	女性であれば、行きつけの美容院にできるだけ行ってもらったり、普段も家族や知人の面会が多いです	普段より、事業所が待ち合わせ場所になり、人が集まりやすくなっている。コロナ禍で面会が出来にくいので連絡に力を注いでいる	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係においては、できる人ができない人を手助けしたりしています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所した後も家族とは、何年もわたり付き合いがあります		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人に合った時間の流れを把握し、その様に過ごしてもらっています	本人や家族等から、生活歴を聞き取り年代ごとに記録している。記録や現在の本人の様子から希望や意向をくみ取り、その人に合った過ごし方が検討されている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生まれてから現在まで、どんな人生を歩んできたか、家族に書面で書き出してもらったり、普段の会話で聞き出ししたりしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の部分部分、又は総合しての状況をいつも把握するよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員の思いを総合してケアプランに提示しています	計画書やモニタリングは本人や家族等・医療関係者と話し合い、意見やアイデアを活かした計画の作成に取り組んでいる	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に1日の記録を記入したり職員間で話したりして流れをくみ取り、処遇、ケアプランに取り入れています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病気などにより、袖村での生活が難しくなった場合は、その人に合った施設を紹介しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源はあまり活用していません		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、かかりつけ医の往診がありません。持病などで以前より利用されているかかりつけ医に月に1度受診されている方もいらっしゃいます	かかりつけ医は本人や家族等の希望で決められている。往診をしてもらう利用者は多い。受診の際には家族と協力し送迎も支援されている。医療関係者と連携して適切な医療が受けられるよう努められている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、訪問看護師が来てくれたり、かかりつけ医がすぐ来れない時に対応してくれています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、経過をよく聞き、可能な場合は早期に退院できるよう、病院、家族との連携に努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、本人、医師、職員の4者が同じ情報、方針を持てるように話し合っています	重度化や終末期の方針は本人や家族等、医療関係者と連絡を取り合い、同じ情報や方針を持てるように話し合われている。事業所でできることも説明しながら、関係者とチームを組んで取り組んでいる	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	もしもの時に備えて、訓練、手順を決めています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に対しても職員は訓練したり、話し合ったりして備えています	日頃から運営推進会議などで話し合いを行い、事業所でも対応できるように訓練もしている。訓練では近所の方に声をかけ、協力を依頼している	多様な災害に備え、小規模事業所が更に防災力を高めるには、地域やご近所との協力体制の構築は欠かせません。長年築いてきた地域との繋がりを活かした合同訓練の実施など、体制づくりの発展に期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りに対する部分は、特に大切なことであり、本人が精神的にダメージを受けないように言動に注意しています	一人ひとり、それぞれの違いを意識して、呼びかけ方も変えられている。本人の得意とすることには積極的に関わられるよう配慮がなされている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に合わせ、又は自己決定できるように支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ本人のペースに合わせ、時間を過ごせるよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に行ったりして、心をリセットしている方もいます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々、食べたい物を聞いて、その日の昼、夕食に出したりします	旬の自家製の野菜や手作り味噌など食材として提供されている。職員が料理をするが、献立に利用者の食べたいものが反映されている。食事の準備や片づけは利用者と職員が一緒に行い、同じ食卓を囲んでいる	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べれる量が異なるのでその方に合わせています。また、水分はお茶だけでも1日1200ccは飲んでいきます		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎日夕方、入れ歯の掃除及び、口の中をすすいでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人なりの排泄パターンにより、その都度支援しています	一人ひとりの排泄パターンを把握して、出来るだけトイレでの排泄支援がなされている。また水分や食事の摂取量にこだわり、自然に排泄できるように取り組みがされている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の食事から農園で採れた野菜を多く摂っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に5回の入浴時間は皆楽しみの時であり、一人ひとりゆっくりバスタイムを楽しんでいます	生活のリズムとして、午睡後に入浴時間があり、入浴は体調の管理にも役立っている。一人ひとりに合わせた支援で夕食前のくつろぎの時間に繋がっている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝の起床後、居室の掃除、又寝具を整え、昼寝または夜間の睡眠に備えています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化、飲み方を常に注意してかかりつけ医や訪問看護師と相談しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や洗濯物の片づけ、野菜の掃除や新聞に目を通すなどをして時間をすごしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は散歩にでかけ、花や野菜を見に行ったり、近所の金魚を見に行ったりしています	事業所の中庭には、犬や猫、金魚を飼育している。草木もあり、自由に戸外に出られるようになっている。田んぼを見たり、近所への散歩も日課として行われている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は所持していません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話や手紙をかけられる方はおらず、知人からかかってきた場合などは、お繋ぎしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋のホーム内では、明るさ・温度・におい等に注意しています	事業所内は掃除が行き届き清潔感がある。共用空間は別棟にあり、リビング兼食堂で陽当たりや風通しがよく、温度・湿度・明るさに配慮されている。畳のある和室ではのんびり横になれる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった自分だけの席をいつも用意することで安心していただいています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には使い慣れた寝具、衣類などを持ってきてもらい、安心感を持てるよう努めています。家具なども本人の状況を見て持って来てもらい過ごしやすい環境づくりにしています	居室は洗面と押入れがあり広く、使い慣れた私物の持ち込みも出来る。夜間のトイレ排泄時などは戸口につるした鈴の音で判断できるよう工夫されている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日座る位置を同じにしたり、夜間はトイレの照明を明るくし、迷わず自分で行けるようにしたりしている。自分でできる方は、パジャマの着替え、歯磨き、洗顔も自分でしてもらっています		